

令和2年度
学校法人 笹田学園 事業計画書

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

I. 法人の概要

本学園は昭和3年の浜松（服装）研究所設立より受け継がれてきた「技術の原点は心である」との建学の精神を継承し、「和する心」「敬う心」「質実な心」「美を求める心」の4つの心を校訓に掲げています。

昭和3年4月	創立者 笹田 栄により浜松市菅原町に設立
昭和20年4月	浜松市東伊場に移転する。
昭和22年	浜松で初めてファッションショーを開催
昭和23年4月	静岡県公認校となる。東京文化服装学院連鎖校となる
昭和30年4月	創立者 笹田 栄逝去。笹田陽子学校長就任
昭和41年6月	学校法人化。学校法人笹田学園となる。笹田陽子理事長就任
昭和41年11月	本館（現4号館）校舎完成
昭和47年12月	ろまん館校舎完成
昭和50年7月	創立30周年記念式典挙行
昭和51年3月	専修学校法成立にともない、浜松初の専門学校となる（学校教育法第82条の8）
	校名を「笹田学園ファッション専門学校」に変更する
昭和55年11月	創立35周年記念式典挙行 記念行事として「第一回 笹田グランプリ」開催
昭和56年4月	文部省指定向陽台高等学校技能連携校となる
昭和58年2月	「第二回 笹田グランプリ」(のちのデザインコンペティション) 開催
昭和60年10月	文部省より大学入学資格付与校として指定を受ける
昭和60年11月	創立40周年記念式典挙行。記念事業として未来館（現2号館） 完成
平成元年4月	連携校向陽台高等学校が単位制高校として認可を受ける
平成2年8月	デザイン館（現1号館）完成
平成5年6月	運動場用地取得
平成6年2月	アート館（現3号館）完成
平成6年4月	男女共学となる。コンピューター分野学科を新設する
平成7年1月	専門誌称号付与校となる
平成7年5月	創立50周年事業として専門課程校舎（現5号館）完成
平成7年11月	創立50周年記念式典挙行
平成9年2月	「第十五回 笹田デザインコンペティション」開催
平成10年4月	校名を「デザインテクノロジー専門学校」と変更し、建築分野 学科を新設
平成10年9月	建築実習棟（6号館）完成
平成12年4月	笹田栄一学校長就任
平成14年2月	「第20回 笹田デザインコンペティション」開催
平成18年2月	創立60周年記念式典挙行
平成19年2月	「第25回 笹田デザインコンペティション」開催
平成24年1月	「第30回 笹田デザインコンペティション記念行事」開催
令和2年2月	「第38回 笹田デザインコンペティション」開催

学校法人 笹田学園 大臣認可年月日 昭和41年6月21日
〒432-8036 静岡県浜松市東伊場1丁目1番8号

設置する学校・学科等

デザインテクノロジー専門学校

専門課程	ファッションビジネス学科	平成10年度開設
	デジタルメディア学科	平成10年度開設
	建築学科	平成10年度開設
	プロ専攻科	平成31年度開設

高等課程	ファッション科	昭和61年度開設
	生活アート科	平成6年度開設
	建築デザイン科	平成10年度開設

設置する学校・学科の入学定員、学生数（令和2年4月1日現在）

設置する課程	設置する学科	入学定員	現員
専門課程	ファッションビジネス学科	10名	6名
	デジタルメディア学科	20名	32名
	建築学科	20名	30名
	プロ専攻科	10名	3名
高等課程	ファッション科	60名	63名
	生活アート科	80名	172名
	建築デザイン科	40名	53名

役員の概要（令和元年末現在）

理事長	笹田 栄一
理事	笹田 富子
理事	鈴木 祐二
理事	伊藤 勝人
理事	塩谷 登女子
理事	瀧口 基雄
理事	内田 光
理事	橋本 光史
理事	高山 直久
監事	板倉 広亨
監事	千葉 信二

評議員	笹田 富子
評議員	山中 久美子
評議員	松本 敏明
評議員	浅井 恒志
評議員	十束 節郎
評議員	笹田 陽二郎
評議員	中本 悦司
評議員	水谷 秀雄
評議員	笹田 恵子
評議員	鈴木 祐二
評議員	村松 正之
評議員	山本 洋子
評議員	橋本 光史
評議員	豊田 茂
評議員	山内 清司
評議員	兼森 淳一
評議員	坂本 一史
評議員	野々山 訓弘
評議員	八代 拓人

教職員の概要

設置する課程	専任教員	兼務教員
専門課程	2名	11名
高等課程	9名	21名

Ⅱ. 事業計画の概要

1. はじめに

学園を取り巻く環境は、少子化に伴いますます生徒確保が厳しくなり、各学校法人間での競争激化が予想されます。

本学園では「和する心、敬う心、質実なる心、美を求める心」の4つの心を校訓とし、「社会に通用する人材を育てる」を教育目標に掲げ、時代のニーズに対応した教育内容の充実を図り、更に学力の向上に努めて参ります。

特に、年間の教育計画を部署別及びコース別に、一層きめ細かく指導を実践するための年間指導計画書と授業報告書を策定します。

また、笹田学園の持続性を保つためには、新時代に即したカリキュラムの構築と、それに対応できる教育環境の整備が今後の大きな将来計画となるが、これには財政面の経営計画に基づく中で、健全な財政運営のもとに進めていくことが重大な課題となっている。

一方、財務情報公開の義務化により、時代を先取りした諸改革の実現をより確実にかつ一層促進する必要性が生じており、学校法人を取り巻く環境の変化に対応できるよう事務能力の向上にも努めて参ります。

(生徒支援)

快適で安心安全な学校環境の整備を推進する。

小・中学校時の基礎学力が定着していない生徒へのフォローアップ体制の整備。

具体的に放課後の時間を使つての個別指導を行う。

(社会貢献)

地域の清掃や、専門分野の知識・技術を活かしたボランティア活動の推進など、多様な地域の諸課題解決に向けて共に行動する。

(運営)

不断に自己点検・評価を行い、効率的で機動的な学校運営に努める。

(生徒募集)

志願者数の確保に向けた募集力の強化のため、すべての学科・部署、すべての教職員がそれぞれの立場で、募集力の強化について考え、実行する必要があります。具体的には、入試制度の見直し、出願システムの構築、志願者動向調査システム、受験生への情報伝

達、募集広告の見直し、中学・高校訪問の強化（生徒募集に向けた教職員の業務分担と役割の見直し）、体験入学・オープンキャンパスの強化等を図る必要があります。

（進路指導）

就職に関しては、昨年度から大分求人数が増え始めているが、新たな企業への訪問を進め就職先の開拓を続けていく。